



CHARTERED SEPT. 11. 1953

Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO YAMATE

YAMATE YMCA, 2-18-12, NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO TEL. 03-3202-0321 FAX.03-3202-0329

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-18-12 山手YMCA内

2016 - 17 会長主題

招かれた者としてふさわしく

あずさ部長	浅羽俊一郎 (東京山手)	「あずさ部は賜物の宝庫。もっと活かそうぜ！」
東日本区理事	利根川恵子 (川越)	「明日に向かって、今日動こう」
アジア地域会長	Tung Ming Hsiao (台湾)	“ Respect Y's Movement ” 「ワイズ運動を尊重しよう」
国際会長	Joan Wilson (カナダ)	“ Our Future Begins Today. ” 「私たちの未来は、今日より始まる」

会長 金本伸二郎 / 副会長 尾内昌吉 / 書記 増野 肇・飯野毅与志 / 会計 中村孝誠
 直前会長 浅羽俊一郎 / ブリテン 功能文夫 / 担当主事 松本竹弘

2017年 1月 (IBC/DBC の月)	
と き	1月17日 (火) 18:30-20:30
と ころ	山手センター101号室
受 付	尾内規子さん、飯野毅与志さん
司 会	中村孝誠さん
開会点鐘	会 長
モットー・ワイズソング	一 同
聖句朗読・祈祷	鈴木田通夫さん
ゲスト・ビジター紹介	会 長
会 食	一 同
ハッピーバースデー	
楽しい歌	鈴木田祐子さん
卓 話	「福島除染活動に従事して」 所沢市教育委員 寺本 彰さん
山手Yの小窓から	松本さん
ニコニコ	一 同
報告・連絡事項	各担当
閉会点鐘	会 長

当番〔2班〕中村、尾内(規)、鈴木田、飯野

ワイズメンズクラブ モットー

『 強い義務感をもとう
義務はすべての権利に伴う 』
“ To acknowledge the duty
that accompanies every right ”

今月の聖句

新しいぶどう酒を古い革袋に入れる者はいない。そんなことをすれば、革袋は破れ、ぶどう酒は流れ出て、革袋もだめになる。新しいぶどう酒は新しい革袋に入れるものだ。そうすれば、両方とも長持ちする。
マタイによる福音書 9章17節

1月 HAPPY BIRTHDAY

金本伸二郎さん 27日

12月報告	
会員在籍数	16名
例会出席者	メ ン 10名
	メネット 1名
ゲスト・ビジター	2名
会員出席率	63%
ニコニコ	一円 (累計 39,384円)
B F 国内切手	—kg 外国切手—kg

会費の納入は、会計(中村君)への納入または下記銀行口座への振込みをお願いします。
三菱東京UFJ銀行 高田馬場駅前支店
 普通 3548431 「東京山手ワイズメンズクラブ」



山手センター会員クリスマス

尾内昌吉

毎年恒例の山手センター会員クリスマスは12月4日(日)18:00より開かれ、山手センターの会員、ワイズ、わくわくサロンの方々、山手学舎リーダー、スタッフ合計80名、その中、山手クラブからは浅羽、浅羽(恵)、金本、中村、松本、増野、尾内、尾内(規)の8名が参加した。

第1部はクリスマス礼拝が行われ、司会は越智京子さんが担当、日本キリスト教団早稲田教会古賀牧師よりクリスマスメッセージを頂いた。

第2部は2階に移り、受付で頂いたプログラムに記載された図柄のテーブルに着いた後、感謝の祈りより始められた。

進行はリーダーによりスムーズに行われ、リーダー達が用意した鍋料理に舌づつみを打ちながら楽しい一時を過ごす事が出来た。

参加されたわくわくサロンの「上を向いて歩こう」「人生六十から」の合唱には全員が一緒になって歌った。また「ビンゴゲーム」も賑やかであった。

最後に「きよしこの夜」を歌ってお開きとなった。

また「国際協力募金」の献金が捧げられた。リーダーはじめ若者が、準備、運営、あと片付けと奉仕して下さった事に感謝申し上げます。



12月 拡大ヨルダン会

とき：12月20日(火)18:30-20:30

ところ：山手センター201号室

出席：飯島(愛)、飯野、尾内、尾内(規)、金本
 機能、中村、7名

ゲスト・ビジター 福島多恵子さん、宣子さん
 2名

合計 9名

例年、12月例会は山手センター会員クリスマスに合流し、12月ヨルダン会は例会日の第3火曜日に「拡大ヨルダン会」と称して開いている。

当日は、浅羽さんが年末年始にかけてジュネーブに行っておられ、そして飯島さんが自転車で走行中に転倒してケガをされて入院・手術ということもあり、欠席の方が例年より多く、ちょっと盛り上がり欠けた点はあったが、その分を福島多恵子さんと宣子さんのお二人が補ってくださった。また、飯島愛子さんが隆輔さんの入院でご心配の中を、お弁当とケーキを準備してくださり、おいしくいただいた。

ヨルダン会の議題としては、次年度の会長候補の選出等の重要議題があったが、欠席者が多かったので当夜は協議をやめて、くつろいだ懇談の時とした。

福島多恵子さんは、創立50年の目黒クラブが昨年10月に解散した前後の状況などをお話しくださり、また、ご自身が日本区メネット事業主任や東日本区メネット委員長をされた思い出をお話しくださった。福島さんは北新宿4丁目にお住まいで、中村さんの家ともお近くであり、今後はバス一本で来られる山手クラブの例会に宣子さんと積極的にご参加くださるそうで、うれしいことです。また、奈良信さん、青鹿さん、福村さんに、皆さんでクリスマスカードに寄せ書きをしてお送りしました。(機能)

東京クラブ 新春特別例会

1月10日(火) 18:30～

東京YMC A東陽町センター1階ウエルビー

特別講演

前日本銀行総裁 白川方明(まさあき)氏

「おカネと信頼・私の体験的中央銀行論」

講演者と演題に強く惹かれて出席した。出席者は、東京クラブのメン25名、メネット8名、他クラブのメン・メネット14名、ゲストが58名で、計105名、見事100人例会を実現していた。



白川さんは2008年4月に日銀総裁に就任、2013年3月に退任された。2013年9月から青山学院大学特任教授でおられます。

10ページに及ぶレジメが用意され、それと同じ内容をスクリーンに映し出しつつ、白川さんは講演された。以下、その要旨をご報告する。

「おカネと信頼：私の体験的中央銀行論」

1、問題意識：民主主義社会における中央銀行

- 中央銀行は原則各国に一つ存在。
日本：日本銀行、米国：連邦準備制度(FRB)、ユーロ圏：欧州中央銀行(ECB)と各国中央銀行(ブンデスバンク等)
- 総裁時代の5年間は激動の時代で、リーマン・ショック、ユーロの危機、東日本大震災、2回の政権交代・頻繁な大臣の交代(6人の首相、10人の財務大臣)があった。
- 世界中が中央銀行頼みになっている。
中央銀行の果たすべき役割について考える。

2、中央銀行とその役割に関する体験的感想

- 中央銀行は物価の安定と金融システムの安定の両方を目的としている。
- 中央銀行は「銀行」である。
- 通貨の安定は究極的には財政の持続可能性に対する信頼によって支えられている。
- 危機時の中央銀行はその果たすべき役割につ

いて、ぎりぎりの判断を迫られる。

- 中央銀行は法的独立性を有しているが、国民からの最小限のサポートがなければ 存立は難しい。

3、マクロ経済運営の面で失敗の教訓

- 失敗の時期：1973、74年の狂乱インフレバブル(1987年以降)
バブル崩壊後の金融危機
- 持続不可能なことは少し長い時間が経つと必ず「しっぺ返し」を食う(インフレ、金融危機等)。
- 仮に中央銀行が独立性を有していても、社会の大きな動きや「時代の空気」から無縁ではありえない。

4、中央銀行とは何か

- 中央銀行の役割は経済の持続可能な成長を実現するのに必要な通貨を供給すること。
- 持続不可能な動きが顕在化した現象がインフレや経済危機。
- 持続可能性を脅かす動きを早い段階で察知、対応することが大事。
- 経済の中長期的な成長率を決めるのは労働人口の増加と生産性向上で、金融政策はあくまでも環境作りであり、「繋ぎ」である。
- 中央銀行(家)を取って例えれば医者に近い。
誠実な説明は必要だが、「市場との対話」はむしろ危険。

5、中央銀行に必要な要素

- 中長期の視点、専門的な知識、ロジックを大事にしつつ特定の理論に囚われない姿勢、Groupthinkの回避(組織の空気の回避)、Integrity(誠実さ、首尾一貫性)

6、日本経済の課題は何か？持続可能性を脅かす要因は何か？

世界経済

- 世界的な金融緩和依存の継続、過剰債務、為替レート競争
- 所得・資産分配の不平等化に伴う社会的不安定化

日本経済

- 急速な高齢化・少子化への対応の遅れによる潜在成長率の低下
- 財政悪化

7、課題は正しく設定されているか？

- 問題は高齢化、人口減少自体にあるのではなく、人口動態変化に対する経済・社会の不適合。経済は人間の意志で変わるが、同時に「制

度」を変える難しさがある。

- ・デフレは日本経済の直面する問題の原因ではない。将来に対し自信を持っていないことに起因する諸々の問題を漠然と「デフレ」という言葉で表現しているため、結果として日本経済の直面する大きな課題に対する認識が曇る状態を生み出している。

8、経済財政改革とひとり一人の国民

- ・国民のある程度の支持がないと改革の実行は難しい。
- ・我々はどのような社会を実現したいのか。
- ・自分の生活と同時に子供や孫の将来も考える。
- ・日本経済の直面する課題を正しく認識することがすべての出発点。
- ・改革の成果が目に見えるのにはかなり長い時間がかかる。
- ・楽観も悲観も禁物。どの国も難しい課題に直面。大きな変化はチャンスでもある。
- ・経済は自然現象ではない。時間はかかっても社会の構成員の意思によって変わり得る。

(まとめ 機能)

.....

在京ワイズ合同新年会

金本伸二郎



時：1月7日（土）12：30～15：30

2017年在京ワイズ合同新年会は、山手センターに於いて開催されました。

第1部の礼拝では、日本基督教団早稲田教会の古賀牧師により、「虹は…ここにある」と題した「奨励」がありました。古賀牧師からは、2014年におきた韓国セウォル号転覆事故のキリスト者遺族の多くが信仰を失ってしまっているという事例、一方で癌で闘病中にあっても力強く生きているワイズの仲間のお話を通し「日向の信仰」ではなく、困

難な中、また一見理不尽と思われる中でいかに歩むべきかを問い、「暴風雨に生きる信仰」が語られ、雨の日が続いても前向きに生きることで、「虹は今ここにある」のだというミスチルの歌う「ヒカリノアトリエ」の最後のフレーズで締められました。1年を始めるにあたって示唆に富んだ、ふさわしい説教でした。

第2部は、「新年歌はじめ」と題して参加者全員で「富士山」や「青い山脈」などある人には懐かしく、ある人にはどこかで聞いたことのある唱歌を、声高らかに歌い、大いに盛り上がりました。

今年は東京タンポポYサービスクラブがホストとして担当、(山手クラブのメンバーだった戸坂さんが1,2部とも奏楽にあたっていました。山手クラブからの参加者は、尾内(昌)、尾内(規)、中村、増野、飯野、金本の6名でした。

YMCAニュース

▼ピンクシャツデー

「ピンクシャツデー」とは、2007年、カナダの学生2人から始まったいじめ反対運動です。ある日、ピンクの服を着て登校した少年が「女みたいだ…」といじめられました。それを見た先輩2人が50枚のピンクシャツを友人に配り、翌日登校します。学校では呼びかけに賛同した多くの生徒がピンクのシャツを着て登校。学校中がピンク色に染まり、いじめが自然となくなったそうです。

このエピソードがSNS等で世界中に広まり、今では70カ国以上でいじめに反対する活動が行われています。カナダで最初にこの出来事があった日が2月の第4水曜日で、それ以降、2月の第4水曜日に私たちもいじめを考え、いじめられている人と連帯する思いを表す1日としています。山手センターはこの日はピンクシャツを着てアピールする予定で、各センターでも実施予定です。

▼年末年始 山手センタープログラムのご報告

12月26日～1月7日に、山手センターでは多くのプログラムを実施しました。地下1階のプールでは、約150名の子どもたちが5日間の短期水泳教室に通い、また、外遊びやクラフト、プールの組み合わせで実施したプールウィンタースクールでは、60名の子どもたちが参加しました。スキーキャンプは、6本実施し、約230名の子どもたちがスキーを楽しみました。また、これらのプログラムの実施にあたり、延べ100名のボランティアリーダーの関わりがありました。

(松本竹弘)

おたより

<青鹿博明さん> お世話さまです。仕事の能力は落ちていますが、どうやら元気で年を越せそうで感謝です。

<上妻英夫さん> 「都雪昼のサドルに積もりけり」5年振りの降雪、路端の自転車サドルに真っ白な雪が積もっている。

<浅羽俊一郎さん> 部を如何に盛り上げるか、模索したり、ボンヤリしたりで半年。後の半年で何を残すか？あずさ部20年は節目になるのでしょうか？

先日、故星野達雄メンの奥様、光代夫人を見舞ってきました。リハビリ中でお祈りください。正月中は一人ジュネーブで過ごします。この1年もよろしくお祈りします。

<飯野毅与志さん> 卓話者の候補として、西早稲田にお住まいの金子磨矢子さんを推薦します。障害者福祉についてお話いただけたと思います。

<飯島隆輔さん> 私は12月13日に自転車で転倒し、青梅街道の大ガード付近を高速で走っていたために転倒した時にハンドルで胸を強打し、肝臓が半分潰れる重傷を負いました。外傷性肝破裂という病名で、日大板橋病院の救急救命センターで集中治療を受け、その後JR病院に転院し、1月4日退院しました。自転車も乗り方によっては怖いですね。

仕事には5日から復帰しましたが、しばらく安静にして合併症が出ないように気を付けて生活します。今年もよろしくお祈りします。

<鈴木田通夫さん・祐子さん> 新年明けましておめでとうございます。浅羽部長、金本会長あと6か月、まず健康が守られますよう祈ります。Yに連なる子供たちの安全、リーダーたちの健康、職員の活躍、Y'sメンバーの健康がそれぞれ祝福され、新しい年の大きな力となりますように。

<増野 肇さん> 夜の会合に出るのがかなり厳しくなりました。冬の間休ませてもらいます。

第2回 あずさ部評議会

日時 : 2月11日(土) 13:30~16:30

登録開始 13:00~

評議会 13:30~15:00

話し合い 15:00~16:30

会場 : 山手コミュニティーセンター



在京ワイズ合同新年会での笑顔です

編集後記

▽今年には日本が南極観測を始めてから60年になるのだそうだ。1956(昭和31)年11月8日に南極観測隊は観測船「宗谷」で東京・晴海ふ頭を出港、57年1月29日に南極のオングル島に上陸し「昭和基地」を開設したのであった。敗戦で疲弊した日本に夢と希望をもたらした国際的な一大快挙であった。南極越冬隊は今、第58次隊が越冬している。

▽1952年9月に東京YMCA山手ブランチが開館、そのサポートクラブとして東京山手クラブが翌53年9月11日に誕生した。チャーターナイトは10月24日(土)、「東京基督教青年会山手ブランチ開館披露式」と「1953年度ワイズメンズクラブ東部地区大会」と併せて行われた。この時点で現東日本区に属するクラブは横浜(1930)、東京(31)、仙台(48)、甲府(50)、山手(53)の5クラブだけであった。その後に札幌(55)、東京江東(59)、東京むかひ(61)と続き、今日の東日本区の規模に至った。

▽山手クラブは今年で創立64年、会員の高齢化がいちだんと進んでいる。クラブの活性化には新会員の加入が必須だが、そのためにもクラブのプログラムを魅力あるものにする工夫、努力がさらに求められる。力を出し合って進みましょう。